

はじめに

地上デジタル放送は、2003年12月から関東、中京及び近畿の三大広域圏で放送が開始され、北陸地域では、NHK富山放送局及び北日本放送が2004年10月1日から放送を開始し、他の放送事業者については、2006年10月までに放送を開始することになっています。また、携帯電話や携帯受信端末の移動体向け(1セグメント)放送については、2006年4月から地上デジタル放送の開始に合わせて、順次サービスを開始します。

この移動体向け(1セグメント)放送は、6MHzの放送帯域を13セグメントに分割し、その中の1セグメントを使用して、携帯電話や携帯受信端末に組み込まれた小型の移動受信機へ放送するサービスであり、移動中でも安定したサービスの利用が可能となります。また、移動体向けデータ放送とインターネットへの接続等の携帯電話の通信機能と組み合わせることにより、通信と放送を連携したサービスを行うことが可能であり、さらに、非常災害時等の緊急警報放送サービスなどへの活用も期待されています。

このような移動利用の形態においては、あらゆる場所でシームレスに放送を受信することが必要となってきます。特に、北陸地域は冬期の積雪等により、閉塞空間となっている駅ホームやバス停の待合室及び地下街等の利用が増えますが、これらの場所では受信が困難となることが想定されています。地上デジタル移動体向け(1セグメント)放送の普及促進を図るためには、これらの不感地帯解消が重要課題となってきます。

このため、本調査検討会では、既に地上デジタル放送を開始している富山県のフィールドを利用し、不感地帯を解消するためのギャップファイラー(中継装置)に関して、その有効性の検証及び技術基準の策定に資するための調査検討(技術試験を含む)を行い、ギャップファイラーの普及に向けた技術的及び制度的課題等を明らかにしたところです。

最後に、本調査検討会及び本調査検討会WGに参加され、ご尽力頂きました各委員の皆様にご感謝いたします。さらに、本報告書において検討した結果について、携帯電話や携帯受信端末の移動体向け(1セグメント)放送の導入・普及の促進が図られることを期待します。

平成18年3月

地上デジタル移動体向け(1セグメント)放送の不感地帯解消のための
ギャップファイラーに関する調査検討会
座長 中野 慎夫